

令和4年度第6回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和5年3月15日（水） 13時30分～

2 開催場所

千葉市議会 3階 第3委員会室

3 出席者

（委員）神野委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、高梨委員、廣崎委員、
沼田委員、桜井委員

（事務局）神田生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、川口文化振興課長補佐、
松田文化振興班主査、安藤主任主事、鈴木主任主事、野口主事

4 議題

- （1）次期千葉市文化芸術振興計画骨子案について
- （2）千葉市芸術文化振興事業補助金制度の改正について

5 議事の概要

- （1）次期千葉市文化芸術振興計画骨子案について
次期千葉市文化芸術振興計画骨子案について意見交換を行った。
- （2）千葉市芸術文化振興事業補助金制度の改正について
千葉市芸術文化振興事業補助金制度の改正について、事務局から改正案を提示し、
意見交換を行った。

6 会議経過

【神野委員長】

議題1について事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

基本的には今までの取り組みをベースにしながら、振興会議での意見、市民意識調査などから、骨子案をご提示いただいた形になろうと思います。

こちらについて皆様から活発なご意見をいただければと思います。

全体として、前提としてお話いただいた、国の法律の整備、オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの展開、SDGs、社会包摂など文化芸術に期待されることが従前のものとは異なってきているということをもふまえて、千葉市の計画も大きな変化がある部分かと思います。

もう一つは、現在新人賞はありますが、その後のサポートを強化していくことを通じて、それを支える人の育成や、アーティストを支援するということが書かれています。

【椎原委員】

関連する法律も改正されて社会全体が取り組んでいるところですが、骨子案の中では社会包摂の視点がかかなり弱い印象があります。施策の中では④の新たな価値の創造の部分にあたりますが、ここでもっと社会包摂に踏み込んで書いたほうがいいと思います。

例えば、港区が新しく施設を作りましたが、そこでは社会包摂を押し出しています。それと比べると、千葉市はあまり意識が変わっていないという印象を受けます。

次は、千葉市の個性を押し出すことが難しいという現状です。なぜ個性を感じられないかというところをまず分析する必要があると思いますが、今ある個性を押し出すというよりは、個性を創り出すという意識を持った方が良いのではないかと思います。

そして21ページの理念については、何を創造するのかにあたる目的語がないので、意味がよくわからないというところがあります。

【神野委員長】

椎原委員のご指摘を簡単にまとめると、基本施策4に関わるところで、社会包摂を強く打ち出すべきではないかというご意見。

千葉市の個性という点については、現状の個性の活用が難しいというところを鑑みて、千葉市の個性を創っていく視点が重要であるというご意見。

理念については仮という形で提示されていますので、皆さんのご意見を受けて変更ができるものということになります。補足を行うと、目的語になる部分が、新たな価値、コミュニティの形成など、複数の事項があるため、あえて明示していないというところがあるかと思います。

【桜井委員】

骨子案の中で、ゆかりについて定義づけされていないので、様々なところにゆかりを記載する形ではなく、市としての定義を提示することで、ゆかりについての意味を理解していただけるのではないかと思います。

ただし、在住ではない、出身ではないなどの対象ではない方を、ゆかりがないという形にせず、広いスタンスでゆかりという意味をとる必要があると思います。

【神野委員長】

ゆかりの範囲が曖昧であるというご意見ですが、ゆかりの範囲について明確な決まりなどはあるのでしょうか。

【事務局】

明確な決まりなどはなく、新人賞の応募要件では、千葉市出身、在勤在学なども該当としており、かつ、在住年数等の制限などもなく、広くゆかりとしているという実情でございます。

【神野委員長】

事務局の回答のとおり、ゆかりを広く捉えたほうが、より良い人材の育成や、催しの開催に繋がりが、最終的に千葉市にプラスになる可能性があるということかと思えます。

以前の勤務先では、ゆかりを広く捉えて、より面白く、魅力ある展示を行うべく、工夫をしていました。

千葉市に住所があるという要件にしてしまうと、内向きで狭すぎてしまうと思います。文化芸術は見てもらうということも重要なプロセスであるので、限定という方向性よりは、広げていくという方針にするべきではないかと思えます。

【関委員】

ここ10年の中で最も変化を感じているのが、ハラスメントへの意識です。骨子案の中ではハラスメントは記載されておらず、計画で取り扱うものではないのかもしれませんが、市ではどう考えているのでしょうか。

【神野委員長】

特に制作現場の責任者からのハラスメントが非常に話題になりました。千葉市では幸いにして、そのような事例が報告されていない状況だと思われませんが、事例がないということから、計画に入れることを否定するものではないので、計画の中に含めるとするならば、基本施策②の市民の文化芸術活動への視線の中に含めることが可能であると思います。

【高梨委員】

ハラスメントについて、文化芸術活動をしている方が、参加しづらくなったり、参加を辞めてしまうことは、ありうることだと思います。ですので、そのようなことが起こらないように、ハラスメントの視点を入れることは良いことだと思います。

また、市のゆかりについては、広く捉えることは重要なことだと思います。

【神野委員長】

ハラスメントという視点は大事だと思います。計画に含めることは、事務局としては問題ないでしょうか。

【事務局】

いただいたご意見ですので、検討させていただきたいと思いますが、先々どのような事業を実施するかというところになりまして、施策としてイメージできるかを考えてから逆算的に行えれば、項目として含めることも可能かと思いますが、今お答えできるものはない状況でございます。そちらについては、時間をかけて検討させていただければと存じます。

【神野委員長】

例えばこの会議では、僕が委員長を務めていますが、文化芸術の分野では、女性の活動率も高いので、女性が務めたほうがいいのではないかなど、あらゆる点に関わってくるところかと思えます。

ですので、個別の事業にという形ではなく、実施する上でその観点が非常に重要であることを示すことが必要なのではないかというご意見をいただいたと思っています。

椎原委員のご意見の個性を新たに見つけるということに加え、既にある個性を磨いて伸ばしていくという視点が必要であると思います。

それは千葉市の既存の施設を展示場所として活用したり、様々な分野と連携することで得られる可能性があると思います。

そして新たな個性という観点では、新しい価値の創造として以前ジャンルを絞って取り組んでいましたが、個性を育てていく・作っていくという観点では戦略的な視点が不足していたように感じます。

一方で、総花的にバランスをとっていても、個性が出ないので、一つに絞って取り組みを集中するという手法は有用なため、引き継ぐべきであると思います。併せて、次の計画では何を重点的な個性とするかは議論を行っていく必要があると思います。

【椎原委員】

戦略については、マーケティング的な要素を持つことが大切なのではないかと思います。

市の富を増やすということが目標になるのかもしれませんが、行政だけで行うことは難しいと思いますので、産学連携、民間企業との連携、学校とのコラボレーションなどを通じた市内の文化芸術の発展という戦略的視点を難しいかもしれませんが、盛り込んでもいいのかなと思います。

新人賞の、市ゆかりの条件は、狭いことをしているように感じます。全国から応募できるようにして、受賞した人が市内で、教育普及活動やワークショップなどを実施することを通じて、市ゆかりのアーティストとなってもらえるのではないかと思います。

市の既にゆかりのあるアーティストだけ手厚くするという形ではなく、市ゆかりアーティストも切磋琢磨して、競争を行うべきだと思います。

【神野委員長】

既にゆかりのある方ではなく、受賞をきっかけに、千葉市で展示などを行うことによって、市民の方がそれを鑑賞できる機会が生まれます。

そのようなことから、このような縁を千葉市の個性にどう活かしていくかを、戦略的な視点とすることができる可能性があるというご意見であると思います。

【関委員】

私は最初は縁もゆかりもありませんでしたが、岡山市で10年演劇をしているうちにそれがゆかりになりました。既にあるゆかりを必須とする地域は個人的にはあまり発展性を感じられないように思います。

理念について、都市的な要素を感じられるようにしたほうが良いと思います。緑や海辺など、自然を押し出していますが、幕張新都心などもありますので、東京を目指してほしいというわけではありませんが、都市的な要素を押し出していないと、まち・村というような、千葉市と規模の違うところの文化芸術に対する政策になってしまうのではないかと思います。

【神野委員長】

ゆかりは作られていくものであるというご意見と、計画策定の背景から都市的な要素をどうイメージするかというご意見であると思います。

計画で謳った、文化芸術のサポート支援を通じて、コンサート、展覧会、講演などが行われることにより、人々が繋がって、新しいコミュニティができた先にできるものだと思います。

【廣崎委員】

先ほどの椎原委員の新人賞を受賞した人を、受賞をきっかけにゆかりとするという意見はとても良いと思います。

私の所属しているNPOでは10年間国際大会を行っており、開催している分野では有名な存在になっています。団体が行っていても、有名になっているので、そのようなことを市が行うことで、分野の中で憧れの大会となったり、人が集まる契機となるなど、収益にも繋がる可能性があるのではないかと思います。

【神野委員長】

色々な人が文化芸術を通じて関わることで、千葉市のファンや、ゆかりの人が増えていくことも、文化芸術による交流の大きな成果として、廣崎委員は実感されているというご意見でした。

千葉には立地上、千葉に目的がないと人が来ないと考えられるため、目的を作るところが、重要であると思います。そこから元々千葉にいる人との交流を通じて、そこから新たな文化

が作られる可能性があると思います。

【高梨委員】

目的を作るという意見は良いと思います。千葉ロッテやNHKで放送されている駅ピアノなどのように、それを目指して広い範囲から人が来るようになるので、現状狭くなっている千葉市らしさを広くする突破口になるのではないかと思います。

【神野委員長】

千葉の人はおおらかで、他の地域から来た人を排除せず、受け入れていく傾向があるように思えます。そういう性質が、千葉市らしさになるのではないかと思います。

【沼田委員】

県内を取材していて、全く違う文化、暮らしぶりをしていて、排他的なところも寛容なところもあるという印象です。千葉は半島性があり、千葉の中で完結して、外にあまり出ていかない性質があると思います。

互いが繋がっていくためには、それぞれの文化を知ることが重要であると思います。相互のやり取りをするきっかけを丁寧に作ることが、千葉の文化を相互に理解することに繋がると思いません。

【関委員】

千葉県全体と千葉市の文化は違いがあるかもしれません。

【瀬崎委員】

館山の方など、房総の方に行くと自然豊かですが、そこと比べると自然を千葉市の魅力にするには弱いかもしれません。県の中心である市として、県内をリードする姿をもっと押し出してもいいと思います。

東京と近いですが、中々いいコンサートなどが開催されていない印象があるので、空港も近くにありまして、アーティストが来たくするようなイベントなどを起爆剤として、住みやすく、文化のあるまちをPRできたら良いと思います。

【椎原委員】

文化芸術の計画について、今まで地域性は弱かったと思うので、地域をどう結んでいくのかなどを考えていてもいいと思います。

県都としてということでは、他の県庁所在地より弱いように感じます。前橋や高崎、水戸などは旦那衆の文化があり、そのようなところは強く押し出されている印象があります。

市内の限りある文化遺産を市と県でどう連携して活用していくかを、計画に盛り込めたらいいと思います。

【神野委員長】

ゆかりについては、単に千葉との地縁血縁だけではないほうが、結果的に千葉市にとってプラスのことを生み出す可能性があるというご意見と、社会包摂、ハラスメントの問題などの観点を明示したほうがよいというご意見でした。

そして、文化芸術を活用して個性を生み出したり、都市の魅力を増していくことを考えると、より踏み込んで、市と県でどう連携していくかについて、計画に含めていくことは難しいかもしれませんが検討していただければと思います。

それでは、この議題はこちらで終了して、次の議題である議題 2、千葉市芸術文化振興事業補助金制度の改正について事務局から説明をお願いします。